

幻の陶器、猿投^{さなげ}古陶のロマンが蘇る。



「ベルシャ 青釉取手付水注」

NORIYOSHI OISHI

大石訓義、猿投の世界

2016年

9月5日[月] — 9月20日[火]

平成記念美術館 ギャラリー

open 10:00 close 18:00 | 休館日: 日曜日 | 主催: 株式会社 平成建設 | 観覧無料

 平成建設



猿投 高坏香炉 / h19.0cm φ12.0cm



灰釉長頸瓶 / h21.5cm φ12.5cm



猿投青瓷 唐環耳壺写し / h21.5cm φ17.0cm



猿投 多口瓶 / h23.5cm φ12.5cm



猿投白瓷 獸脚火舎(薫炉) / h12.0cm w32.0cm

陶芸家・大石訓義(おおいしのりよし)は、現在では幻となった猿投古陶研究の第一人者です。使用原料の特定や技法の解明はもとより、時代背景と精神文化の研究も地道に重ね、猿投古陶の再現だけにとどまらず、かつての陶工たちが夢見た青瓷(青磁)の実現にも成功しました。その歴史上の移り変わりを、大石訓義の新作・代表作、約35点によって展示いたします。

「猿投古窯」は、日本陶磁の源流と言われ、本邦初の高火度施釉陶器(猿投灰釉陶器・白瓷)を生み出し、奈良～平安期においては最大規模、かつ最高の技術を誇った官窯です。猿投窯で生産された陶器は、当時の最高級品として平安貴族や豪族に愛されました。

その技法は改良を加えつつ六古窯(瀬戸、常滑、越前、信楽、備前、丹波)に引き継がれましたが、猿投窯自体は歴史の表舞台から姿を消していきました。長らくその詳細は不明のままでしたが、転機が訪れたのは昭和29年(1954年)。名古屋市近郊の急速な開発により遺跡破壊の危機が迫ったことで、名古屋大学が中心となって短期間の集中発掘調査が行われました。その結果、古墳時代後期から鎌倉初期まで700年に渡って操業した一千基を数える古窯が次々と姿を現し、空白であった日本陶芸史を一気に埋める大発見となり、その大窯業地は、猿投山西南麓古窯址群(さなげやませいなんろくこようしぐん)、略して「猿投古窯」と名付けられました。

そこで発掘された多様なデータを元に、大石訓義が現代に蘇えらせた幻の古陶、猿投古陶の世界をお楽しみください。

大石 訓義 Noriyoshi Oishi



[陶歴]

- 1950 静岡県島田市に生まれる
- 1977 プラント輸出業務を辞し、陶芸を志す
- 1980 土岐市陶磁器試験場研修課程修了
韓国・インド・タイなどにて古代陶法修習
- 1984 猿投古窯研究のため愛知県豊田市に築窯
- 1995 猿投青瓷発表
- 2003～2004 中国福建省、タイにて釉薬調整技術指導
- 2008 「猿投古窯ー日本陶磁の源流」 雄山閣より出版

考古学館、民芸館、百貨店、画廊等にて「猿投白瓷展」開催多数

平成記念美術館 ギャラリー

【お問い合わせ】 03-3426-1103

開館時間 10:00～18:00 / 観覧無料

休館日: 日曜・年末年始

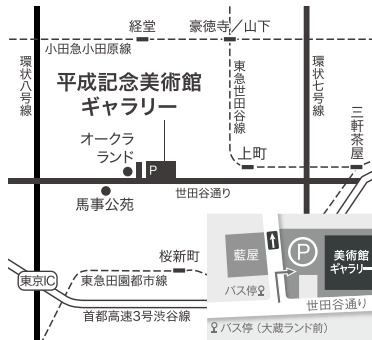
駐車場: 全5台

〒156-0053 東京都世田谷区桜3-25-4

【電車】 東急世田谷線 上町駅より徒歩10分

【お車】 馬事公園正門より世田谷通り沿いに東へ約650m

【バス】 渋谷駅バス停 3番乗り場「成城学園前駅西口」行 渋24(東急バス/小田急バス)「大蔵ランド前」下車 徒歩1分



2015年 グッドデザイン賞 W受賞

この度、平成記念美術館ギャラリーを併設する平成建設世田谷支店は、2015年度グッドデザイン賞を受賞いたしました。また、低市場価値材を活用した壁構造の家「木のカタマリに住む」は、グッドデザイン・ベスト100を受賞しています。受賞作品は、東京ミッドタウンで開催されたグッドデザインエキシビジョン2015(G展)で紹介されました。

次回展覧会 ※スケジュールは予定の為、変更になる場合があります。

2016年9月26日(月)～10月20日(木) 久保修 紙のジャポニスム「切り絵の世界展」



写真左) 新築住宅「木のカタマリに住む」
写真右) 商業施設「平成建設世田谷支店」